

朝日町と税金 ～SDGsの観点から～

朝日町立宮宿小学校教諭 6学年 稲垣 健太

実施年月日：令和4年1月20日～1月31日 20名

1 実践計画・指導のねらい

本学級では、総合的な学習の時間に、単元名を「朝日町とSDGs ～2030年までわたしたちにできること～」とし、SDGsについて学習している。その中で、2030年の朝日町の姿について考えるという学習を継続して行ってきた。今回の税の学習は、総合的な学習の時間の本単元と、社会科の税の学習が含まれる単元をカリキュラムマネジメントし、合科的に学習した。子ども達は、理想のまちづくりについて考える機会はあるものの、金銭面についてまで考えを及ぼす機会はなかなかない。政策を実現するためには、財政面も切り離せない問題であることを理解し、自分達の提案を実現させるために、税金をどのように使えばよいかを考える。また、「朝日町予算説明書」を資料として用い、税金が実際に町民の暮らしに生かされているということを実感させることをねらった。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、子どもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・租税教室で税の使い方についての基礎知識を学ぶ。【租税教室】 	○ もし税金がなかったらみんなの生活はどうなると思いますか。 ● 消火活動にも料金がかかってしまう。 ● 当たり前になっていることが、当たり前でなくなってしまう。 ● 税金は私たちの生活に不可欠なものなんだね。 □使用教材名 ・DVD（マリンとヤマト 不思議な日曜日） ・1億円レプリカ
2	・朝日町ではどのようなことに税金を使っているのかを調べる。 	○ 朝日町では、どんなことに税金が使われているのでしょうか。 ● 朝日町の令和3年度予算は約53億円なんだね。 ● コロナワクチンにも税金が使われているよ。 ● ゼロカーボンシティの実現に向けて440万円使われているね。 □使用教材名 ・令和3年度朝日町予算説明書 ・令和2年度朝日町予算説明書
3	・SDGsの観点から、朝日町ではどのようなことに税金を使っていけばよいかを考える。 	○ 朝日町では、どのようなことに税金を使えばよいと思いますか。 ● 家事や育児をしている女性が、子ども連れでくつろげるカフェのような場所をつくつたらいいと思う。 ● 朝日町にも駅をつくれば、SDGs11の住み続けられるまちづくりができると思う。1億5000万円くらいかな。 ● 農作物の鳥獣被害を減らすための対策に使っていけば、農家の皆さんが助かるんじゃないかな。 ● 若者も住みたいと思えるように、お店を増やしたい。
4	・税の絵葉書を描き、税金について考えたことを表現する。 	○ 学んだことを生かして、絵葉書を書きましょう。 ● 「持続可能な社会」という言葉を入れようかな。

【指導のポイント】＜1時間目＞

「もし税金が無くなってしまったら」と仮定して考えることで、いかに不自由な生活になってしまうかをイメージすることができた。視聴覚教材や1億円レプリカ等を使いながら租税教室を実施していただいたことで、税に対する興味が深まった。

【指導のポイント】＜2時間目＞

資料「朝日町予算説明書」をタブレットで参照し、税金が実際にどのように使われているのかを調べた。本校体育館の天井工事やコロナウイルスのワクチン接種などにも税金が使われていることを知り、税金をより身近に感じることもできた。また、SDGsの観点から税金の使われ方を見直す様子も見られた。

【指導のポイント】＜3時間目＞

総合的な学習の時間に町議会議員の方と交流する中で、人口減少が朝日町の喫緊の課題であることを学んだ。そのため、住み続けられるまちづくりやジェンダーの平等に関する対策が多く考えられた。前時に予算書を参照したことから、子ども達なりに具体的な金額を考える姿も見られた。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

- ◎ 租税教室を実施し、朝日町役場税務町民課の方にお話し頂いたことで、より専門的なところまで税に対する理解が及んだ。
- ◎ 朝日町から出ている資料（町報や予算説明書）を活用したことで、身近な問題として税金を捉えることができた。
- ◎ 総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメントにより、税について学ぶ必要感を高めることができた。
- ◎ タブレット端末があることにより、教師が印刷をして配付しなくても、様々な資料をPDF等で手軽に参照することができた。
- ◆ 教科書改訂に伴い、社会科における税金の学習が春に移行した。カリキュラムマネジメント等で、単元配列を工夫する必要がある。
- ◆ 学んだことを発信する活動を取り入れると、より学びの必要感が高まると感じた。